

## 広島 長崎

# 反戦闘争に参加

## 8.6 印次

原爆被爆(戦争)への道を再び許すな

水戸の仲間と共に

中電本社前すわりこみ

八月五日、十四時三十分、広島駅に到着した。八名の青年部員は、動労水戸木村青年部長はじめ三名の水戸青年部の仲間と合流し、広島平和公園へむかった。

原爆資料館や原爆ドームは、何度見ても、核兵器の威力のすさまじさ、非人間性を訴える。なぜヒロシマに原爆が投下(空中で爆発する)されたのか? 軍都広島に大本営があり、宇品港からアジアへ侵略していったからだ。われわれは被害者であり、加害者であったことを忘れてはならない。そういつた反戦の思いを胸に宿に足を運んだ。

夕食後は、動労西日本の仲間、国労の仲間たちと交流会を行ない、歓談した。部屋のごうで時間が短かったのが残念であった。

六日朝八時すぎ、中国電力本社前座りこみに参加した。電産中国の労働者が、反原発ストを毎年行なっているそうで、今回初めて参加し、檄布を手渡す。動労西日本・大江さんが、われわれを代表して発言し、大きな拍手でむかえられた。

十時少し前に、水戸と千葉の四人は「八・六広島反戦実行委員会」の分科会に参加するため、一足早く広島大学へ移動した。ここでは、反天皇闘争、核燃・原発、被爆問題という三つのテーマについて昼すぎまで討論が活発に交わされた。



二度と広島を許すな 決意こめドーム前で

記念写真・8.5



「八・六ヒロシマ」宣言を発す

▲宇野首相の来談を弾圧し市内云々。8

昼食後、平和公園へむけてデモ。台風の影響か、通り雨にありなど、例年になく涼しい(といっている)もうだるような暑さではある。

平和公園では、インターナショナルを歌い、八九「八・六ヒロシマ」宣言を発し、宇野首相の来広を弾劾した。つづけて広島労働会館まで広島一のアーケード街をくぐりぬけるデモにくり出した。

デモ終了後、休む間もなく、反戦集会が開催された。ここで、県労連の動員に参加していた本部執行委員の川崎さんと同席。西日本の井面委員長

川崎さんがそれぞれ集合への連帯のあいさつを行なった。

このように八・六ヒロシマ闘争を闘いぬき帰路についた。さらに、八九ナガサキ闘争への県労連の動員に国分(こくぶん)君(新小岩支部執行委員)がそのまま長崎へとむかった。

最後に、今回の派遣団闘争の成功にむけ、各青年部員、親組合員から多大なカンパをいただきました。ありがとうございます。今回の闘いを教訓にしてさらに闘っていく決意を明らかにし、お礼にかえさせていただきます。

全組合員が血を流し、涙を流し、そして勝利した10年!